

甲 第 号

大西 智子 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	斎藤 能彦
論文審査担当者	委員	病院教授	笠原 敬
	委員(指導教員)	准教授	野上 恵嗣

主論文

A Pathological Clarification of Sepsis-Associated Disseminated Intravascular Coagulation Based on Comprehensive Coagulation and Fibrinolysis Function

包括的凝固/線溶動態に基づく敗血症性 DIC（播種性血管内凝固）の病態解明

Tomoko Onishi, Keiji Nogami, Takashi Ishihara, Satoki Inoue, Masahiko Kawaguchi,

Kenji Nishio, Hidetada Fukushima, Hiroshi Kobayashi, Itsuto Amano, Toshiya

Nishikubo, Masaharu Yamasaki, Masato Kasahara, Midori Shima

Thrombosis and Haemostasis 2020 Sep 120(9):1257-1269

論文審査の要旨

DIC は基礎疾患や重症度により凝固能/線溶能が変化する。包括的な凝固能と線溶能を同時に評価可能な凝固線溶波形解析(CFWA)、トロンビン/プラスミン生成試験(T/P-GA)を用いて敗血症性 DIC 57 例を解析した。パラメータは、CFWA は最大凝固速度(|min1|)、最大線溶速度(|FL-min1|)を用い、T/P-GA の凝固能は T-peak、線溶能は P-peak を用い、それぞれ対正常血漿比で評価した。|min1|-R と T-peak-R、|FL-min1|-R と P-peak-R は強い相関性がみられ($P < 0.001$)、CFWA は T/P-GA のバランスを良好に反映していた。

公聴会では、今回発表された、凝固能/線溶能の評価系を用いた DIC の病型分類に対して、臨床的に広く普及するためには、どのような戦略が考えられるか?が議論となったが、大西氏は、この方法は現在広く使用されている aPTT 試薬に tPA を添加するだけで、既存の自動凝固測定装置で測定可能であることを示し、広く臨床応用可能であることを強調された。また、病型分類のカットオフ値の妥当性に対する質問に対しては、実際 type2 の均衡型ではカットオフの設定が困難であり、さらに症例を増やしての解析が必要であると回答された。また、敗血症での観察される DIC は type1 の凝固優位型が多いことを示され、敗血症に続発する DIC の治療戦略への応用可能性を示された。また、本凝固能/線溶能の評価系が、DIC の治療効果判定にも有効であることを示唆された。

研究結果は、DIC の病型分類上極めて有効で、臨床的に意義深いものであるが、質疑応答も大変的確であり、学位研究として価値のあるものとする。

参 考 論 文

1. How to recover lost vaccine acceptance? A multi-center survey on HPV vaccine acceptance in Japan
Kuniyoshi Mizumachi, Hirosato Aoki, Taito Kitano, Tomoko Onishi, Masahiro Takeyama, Midori Shima,
J Infect Chemother. 2020 Oct 27;S1341-321X(20)30371-8
2. Hemostatic function in hyperfibrinolytic disseminated intravascular coagulation.
Takashi Ishihara, Keiji Nogami, Tomoko Onishi, Kenichi Ogiwara, Satoshi Ochi,
Masaharu Yamazaki, Midori Shima.
Pediatr Int, 2019 Sep 61(9):872-881

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに発達・成育医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和3年3月9日

学位審査委員長

循環器病態制御医学

教授 齋藤 能彦

学位審査委員

感染病態制御医学

病院教授 笠原 敬

学位審査委員(指導教員)

発達・成育医学

准教授 野上 恵嗣